



ドキュメンタリー映画

の奇跡

～本当のことだから～

何十億年と続いているいのちのつながり

それを支えていたのは たくさんの**奇跡**だった

2児の母である入江富美子さんが監督し撮ったこの作品は2007年2月完成、国内で2年半の間500カ所、約5万人を動員した話題のドキュメンタリー。

自主上映の輪はアメリカ・イギリス・オーストラリア・カナダ・ネパール・中国等にも広がる。

2009年10月ニューヨーク・サンフランシスコ・コロンビア大学で監督の公演会が実現。

2010年はニューヨークにある国連ホールでの、上映・公演会も計画されている。

2010年1月16日 (土) 午後2時開演 (約120分)

自由の森学園大音楽ホール

協力金：500円 (生徒・子供は無料)

主催：H2-4保護者有志 & 不登校を考える会『風のとおり道』

お問い合わせ：H2-4高野 0494-23-8246

スクールバス：飯能駅南口 12:45発 東飯能駅西口 12:35発

ドキュメンタリー映画

1/4の奇跡

～本当のことだから～

あなたのままで大丈夫

この映画はたくさんのすばらしい人達、出来事との出会いによって出来上がった作品です。映画を通じて「すべての人が1/4の中野大切な一人であり、自分もその一人なんだということ」「自分を受け入れ大切にできたとき、人の事も心から大切にできるということ」を心から感じました。それは当たり前前の日常の中に感謝を見出すことでもあります。



【あらすじ】

この作品は、石川県の養護学校（現、特別支援学校）の教諭である山元加津子さん（かっちゃん）と子ども達との交流を描いたドキュメンタリー映画です。かっちゃんは学校の子ども達を生徒と呼ばず、お友達と呼びます。かっちゃんが驚く事、それは「生きるって素敵なことだよ」とか「大好きってことがとっても大事なんだよ」ということを伝えてくれる子ども達の素敵な力。その事を伝えたくてたまらない…そんな思いで本を書き、講演活動を行っています。方向音痴で握力が無いかっちゃんを助けようとしてくれる養護学校の生徒たち。詩を通し、自分を大切にする事を伝えてくれる障害を持つ大ちゃん。多発性硬化症（別名MS）で無くなった友達の雪絵ちゃん。かっちゃんの周りにはあたたかい心を持つ子ども達とお話から、現在の技術では不可能だと言われている南米ペルーの石垣やナスカの地上絵の神秘、さらに1/4の奇跡のお話へとつながっていきます。それは私たちが生かされているということ、そして命の尊さを知ることもなるのでした。見終わった後、自分を大切に思えたり、あたたかい何かに抱きしめられるような気持ちにさせてくれる作品です。

感動しました。一人の人間として、
この映画を世界中の人に見てもらいたいと思います。
筑波大学名誉教授 村上和雄

「1/4の奇跡」はみんなの愛にあふれた思いの決勝だと
思います。誰もが同じ、誰もが大切、私たちはひとつと
言う事実を、そっと教えてくれる映画です。
翻訳家 山川紘矢 亜希子